

○第8次中期計画の取り組み事項 総括

基本方針 (1)		「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を通じた活力ある地域農業への挑戦	
重点方針	実践方策	総括	
1	農業生産基盤の強化と地域の課題解決	<p>○新規就農者の確保と育成・新たな担い手・後継者の育成・確保に向けた様々な取り組みを行い、農業に携わる「ひと」の拡大を図ります。</p> <p>○優良農園地の維持と耕作放棄地の増加を抑制するため、「地域農業リーダー」の育成に努めるとともに、地域農地の集約・流動化面積の拡大を図ります。</p> <p>○関係機関と連携し、地域ぐるみでの有害鳥獣害対策に取り組めます。</p>	<p>○新規就農サポート事業は、2期生2名、3期生3名が順調に研修を行い、研修園地で栽培した柑橘も共同選果場へ初出荷しました。また、研修生自ら抜根伐採作業を行い研修園地・管理園地の拡大と、行政の事業を活用して新たな園地の拡大も進めました。また、新たな担い手の研修生を募集するため、都市部での就農フェアへ参加しました。</p> <p>○「地域の農地は地域で守る」を基本に、地域・行政等と連携し農地の流動化・集約化に努めました。また、「集落営農実践リーダー育成研修会」も実施しました。</p> <p>○鳥獣害対策では、新たな取り組みとして大型捕獲罠が一定の成果をあげました。各地域や集落単位での取り組みの拡大を引き続き支援します。</p>
2	農畜産物の生産と販売体制の整備と強化	<p>○トップセールスをはじめとした農畜産物の販促活動等、共選共販品目を中心にその他品目についても販売体制の整備と強化を行います。さらに栽培指導を強化し、管内農畜産物の質の向上と生産量の拡大を図ります。</p> <p>○直販体制の充実と強化による委託販売高15.5億円をめざし、生産(出荷)者への栽培指導を強化し、管内農畜産物の出荷量増加と地域農業の活性化に取り組めます。</p> <p>○重点品目(キュウリ・里芋・はれひめ・紅まどんな・甘平・キウイフルーツ・花木)の生産量・販売量のさらなる拡大を図ります。</p>	<p>○共販品目を中心に各助成制度を活用して生産振興を図りました。重点品目(きゅうり・里芋・はれひめ・愛媛果試第28号・甘平・キウイフルーツ・花木)では、生産者・作付面積も増加し、作付指導の強化を行いました。特に里芋については、機械化体系及び大型機械導入による新たな栽培スタイルの構築を進めて、販売高が1億円を超えました。</p> <p>○新たなネット販売に向けた体制整備を行い、10月からの運用を開始しました。有利販売に向けては、各市場への提案や協議を行いました。また、地産地消の拡大のため、共販品目を中心にさいさいきて屋やAコープ店頭で販売促進活動を行いました。</p> <p>○直売所においては、イベント実施や店頭販売力の強化・見直しを行い、より多くの来店者の確保を進めるとともに、販売高の向上をめざし、農家の生産現場情報や商品ごとの食べ方や、消費方法など細かな情報発信を進めました。</p>
3	農業経営支援の充実化	<p>○農業者の青色申告支援を基本に総合的な農業経営支援ができる担当者・指導員の育成を図ります。</p> <p>○農業者の生産コストの適正化に向け、早期予約の向上や量販品目の価格交渉に努めるとともに、農機の整備・点検強化による過剰投資の防止に取り組めます。また関係機関と連携した農業者の労働力支援策について検討し農業者の所得維持・増大に努めます。</p> <p>○各種補助事業の活用・充実と金融部門との連携強化を行い、農業者の資金ニーズ等への対応を強化し生産基盤の拡大を図ります。</p> <p>○農業メインバンク機能発揮に向け、年450回以上の担い手訪問による面談を通じた、総合的営農支援体制の整備を図ります。</p>	<p>○助成事業の活用をはじめ、新規資材や農機具の導入提案などを行い、作業労力の改善を図る取り組みを進めました。話題のスマート農業導入に向けては、ドローンの活用など行政を含めた関係団体・業者と検討を進め、令和2年度には試験的に取り組めるよう体制を整備しました。また、各JAグリーンでJAカード決済ができるように整備しました。</p> <p>○農業経営においては、10月からの消費税増税及び軽減税率の導入を踏まえて、青色申告者を中心に税務署と連携して勉強会を各地区で実施しました。また、営農指導員はTAC経営指導塾などを通じて、税務全般において知識習得を図りました。</p> <p>○農業メインバンク機能発揮に向け、金融部門と営農部門が連携し、昨年度のフォローアップ活動と担い手訪問を行いました。今後も農業者ニーズの把握及び相談対応力の強化等、総合的営農支援態勢の整備を図ります。</p>